

科目名:健康とくらしを支える看護実習 時間割表記名: 健康とくらしを支える看護実習	配当時期 2年次後期 単位数 1単位 時間数 30時間	講義担当者 高木 雅弘
事前学習内容 実習要項参照		
科目全体のねらい・授業目標 【実習目的】 地域で生活している人々とその人々を支援する仕組みについて理解し、地域で生活する人々と家族の健康と暮らしを支えるために必要な看護を実践できる。 【実習目標】 1. 地域で生活をしている人々とその人々を取り巻く環境を理解する。 2. その人らしく健康に暮らすために生活を支えている多様な場の特徴と役割を理解する。 3. 保健・医療チームの一員としての自覚を持ち、専門職業人として望ましい態度がとれる。		
DPとの関連 DP1. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された生活者として理解することができる DP2. 一人ひとりの健康状態に応じて、最善の看護を選択し、科学的根拠に基づいた看護を実践できる DP3. 一人ひとりの多様な価値観や人権を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践できる DP4. 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割を理解し、多様な場で生活する人々の生活の質の向上のために多職種と連携・協働する意義と方法を理解することができる DP5. 自己を理解し、他者を尊重したうえで、人間関係を構築することができる DP6. 専門職業人としての責任を自覚し、広い視野にたつて物事を考え、自己研鑽することができる		
実習の流れ 地域で暮らす人々の健康と暮らしを支える看護について理解できることを目的に、実習オリエンテーション、シャドウイング、サービス利用者とのコミュニケーションを通して、地域で生活している人々の実際を理解する。また、地域で生活するために必要な看護を提供する場とその役割について理解する。 実習では大きく3つのグループに分かれ、4日間の臨地実習で施設オリエンテーション、対象とのコミュニケーションを通して「地域で生活している高齢者」「育児支援を必要としている人」「精神障害を持ちながら地域で生活している人」の理解を深める。 「地域で生活している高齢者の支援」では、通所リハビリや老人福祉センター、デイサービスを利用されている人とその家族との関わりを通して、地域で看護が提供される多様な場と看護の役割について学ぶ。 「育児支援・発達障害のある人の支援」では、こども文化会館や多機能型通所事業所に行き、サービスを利用している子供や母親との関わりを通して、地域で看護が提供される多様な場と看護の役割について学ぶ。 「精神障害を持ちながら地域で生活している人」では、デイケア、就労支援事業所を利用している人との関わりを通して、地域で看護が提供される多様な場と看護の役割について学ぶ。 学内実習にて、お互いの学びを共有し、地域で生活している人を幅広くとらえ、地域で求められる看護の役		

割について考えを深める。

評価

ルーブリックに沿って評価する。

使用するテキスト

①系統看護学講座 専門分野 在宅看護論 医学書院

参考文献